様式３

# 令和４年度　香南市保育所評価報告書

香南市立野市東保育所

| 経営理念 | 【保育目標】おひさまと なかよし のいちっ子<br>【経営目標】『子ども一人一人を大切にし、保護者に信頼され、愛される保育所』をめざす<br>＜子ども像＞○友達とかかわり、思いやれる子ども　○自ら遊びを作りだす子ども　○自分のことは自分でしようとする子ども<br>＜保育所像＞○一人一人の子どもを大切にする保育所　○保護者の子育てを支援する保育所　○保幼小の連携を大切にする保育所<br>＜保育士像＞○子どもとの信頼関係を大切にする保育士　○保護者とのよりよい信頼関係を築く保育士　○専門性の向上に努める保育士<br>○チームワークを大切にする保育士　○意欲を育み環境を考える保育士 |
|---|---|

| 中期経営目標 | | 短期経営目標（評価項目） | 自己評価 | | 保育所関係者評価 | | 改善策等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 達成状況 | 評価 | 考察 | 評価 | |
| 保育教育の充実 | ○ 遊びの充実のための環境整備 | ① 子どもの発達段階についての学びを深め自ら関わり遊びたくなるような教材開発と環境作りを行う | 組織的・計画的に教材研究に取り組むことができた。また、ままごとコーナーの環境について焦点を当てて学び合ったことで１～５歳児の発達の流れを理解しながらクラスの子どもに合った教材や環境の見直しを行うことができた。人員不足や時差勤務の中で研究回数を重ねることが難しく、次年度は取り組み方法を見直したい。 | B | ままごとコーナーに焦点をおき、各年齢の発達に適した遊び方や素材の提示をして環境改善に努めていた。また研修の学びを可視化して全職員で共有できるように取り組んだ点も評価する。 | A | １～５歳児の発達の流れや、子ども理解を深めていくために、次年度も組織的・計画的に教材研究や環境の工夫に取り組んでいく。また、研究の取り組み方法を考えて研究計画を作成し、職員一人一人が主体的に園内研究に参加しながら学びを深めることができるようにする。 |
| | | ② 一人一人の子ども理解に努め、特性や発達、ねらいに適した援助の工夫と、次年度への引き継ぎを行う | 保育者は日々の保育を振り返りながら、一人一人に応じた言葉がけや環境を考え、より良い援助を探ることに努めた。職員同士が相談し合える良い関係も援助の工夫につながっている。成果として、やってみたいことへの意欲が向上した子どもが60～70%となったが、その日その時の子どもの思いに寄り添いながら、適切で臨機応変な関わりを行う援助の難しさも感じた。 | B | 職員間の連携がとれており、一人一人の子どもに応じた言葉がけや対応ができている。また職員間で相談し合える環境であることも評価できる。今後も一人一人の内面理解に努めてほしい。 | B | 年度末には、一人一人の育ちの引き継ぎを丁寧に行う。また次年度も職員間で相談し合える体制づくりに努めながら、子ども理解を深め、特性や発達、ねらいに適した援助につなげていく。 |
| | | ③ 子どもが心動かしている機会を逃さず捉えて、表現する楽しさや気持ちが通じる喜びにつながる援助の工夫を行う | 保育者は子どもが園生活の中で様々な人や物・自然と出会い、多様な感情体験ができるように意識して保育を考えた。また一人一人の育ちに合った言葉がけにも取り組んだ。その結果、60%以上の子どもが心動かしたり、感じたことを表現したりするようになった。 | B | 保護者アンケートからも、子どもが楽しんで園生活が遅れていると感じている保護者が多く、そこからも子ども一人一人が自己表現を豊かに積み重ねられていると感じる。 | B | 次年度も子どもが様々な人や物と出会い、多様な感情体験ができる保育に取り組む。それと共に、体験を通して伝え合うことの楽しさが味わえる環境や援助の工夫についても考える。保育の振り返りを丁寧に記録に残しながら明日の保育に活かしていく。 |
| 職員の育成・資質向上や運営 | ○ 共通課題に向かう職員の協力体制づくり | ① 教材研究について、園全体と個人の両面から学んでいくことで、保育環境の充実と職員の資質向上を目指す | 園全体で教材研究に取り組んだり、ダンスや体操を持ちよって教え合ったりしてきたことで、一人一人が意欲的に教材について考えるようになった。新しい素材を見つけてきては保育に取り入れるようになり、情報は職員間で伝え合うようにもなった。その結果、環境の再構成を行う回数が増えることにつながった。 | B | 教材開発・教材研究など、職員間で共に学びを深める体制ができていたことを評価したい。これからも園全体と個人の両面から学び続ける姿勢を大事にしていってほしい。 | B | 次年度も乳幼児期の発達や学びを踏まえた教材の研究に園全体で取り組んでいく。また、一人一人の保育者が自分の課題を発見し自己研鑽に取り組むことで、環境の充実と職員の資質向上に取り組みたい。 |
| | | ② 感染予防・衛生管理についての改善を行い、日々の保育と共に、行事運営においての安全対策の工夫を図る。 | 日々の感染予防と共に、他クラス他学年と交流する際には、必ずクラスの健康状態を伝え合って内容や時間を検討した。行事ごとに感染予防について話し合い、出来ることを探り実践するように努めた。保護者アンケートでは、保育所の行事や運営は対策や工夫がされていたと感じた保護者が80%となった。 | A | 保護者アンケートからも高評価を得ており、十分に感染予防対策がなされていたと考える。日々の保育や行事での取り組みが保護者の安心につながっている。 | A | R５年度も感染状況への対応によって、保育や行事の実施内容が変化することが考えられる。その中で、子どもの健康と安全を考えながら必要な対策は何かを話し合い、実践内容を記録に残すことで、次年度への参考となるようにしていく。 |
| 地域に開かれた園づくり | ○ 保護者や地域に親しまれる保育所づくりに努める | ① 保護者に保育の情報を発信し子どもの育ちの姿や保育内容の説明を行う | 長時間保育の中で保護者と直接会う機会は少なかったが、一人一人の保育者が保護者への伝え方や発信方法を意識し、工夫しながら取り組むめた。1年間の取り組み結果として、70%以上の保護者が、子どもの成長を喜び、連絡帳や口頭・返信欄等で保育所に伝えてくれた。 | A | 文章だけでは伝えきれない保育内容を、写真や映像を用いて工夫することや連絡帳や園の掲示板、メールを利用した細やかな情報発信が行われていた。 | A | 様々な方法を考えながら、園での子どもの様子を効果的に発信するための工夫を継続して行う。また、表面的な姿だけではなく、子どもの思いや保育の意図を伝え、保護者の安心が増すように一人一人の職員が意識して取り組みを継続していく。 |
| | | ② 地域の自然・人・場所・行事などを活用して、地域に親しみ、地域とつながれる保育を行う | 積極的に園外に出かけて地域の自然に触れたり、季節を感じたりできるよう保育に取り入れた。また、職員間で情報を伝え合いながら、地域の人や物との出会いの場を大切に考えて、子どもたちへの言葉がけを行った。その結果、子どもたちは地域の人や物事に興味を持ち、自分から関わる姿が見られた。 | B | 地域の協力体制が、子どもたちの豊かな経験につながっているので、これからも保護者や子どもたちが地域に親しみを感じられるように取り組んでほしい。また、円滑な保幼小の接続に向けての継続も願う。 | A | 次年度も職員間で情報を伝え合い、話し合いながら、地域の人や物との出会いを大切にした保育に取り組む。また、保護者への発信の工夫を行い、地域の人や物・行事を活用した保育の取り組みを知ってもらい、地域への親しみにつなげたい。 |

【評価基準】Ａ：十分満足　Ｂ：おおむね満足　Ｃ：もう少し努力すべき　Ｄ：大いに努力が必要